

# 代表者会議【当日資料２－３】

## 茅ヶ崎市自立支援協議会 報告書

件 名	令和６年度 第４回 相談支援部会
日 時	令和７年３月１８日（月）１５：００～１６：３０
場 所	茅ヶ崎市役所本庁舎４階 会議室５
事 務 局	ちがさき基幹相談支援センターナル
出 席 者	<p>（委員）</p> <p>■栢沼 玲也 委員（茅ヶ崎市社会福祉協議会 障害者生活支援センター）※部会長</p> <p>■上杉 桂子 委員（茅ヶ崎寒川地区自閉症児・者親の会）※副部会長</p> <p>■岩崎 優佳 委員（茅ヶ崎市障がい福祉課）</p> <p>■加藤 郁子 委員（社会福祉法人翔の会 生活相談室とれいん）</p> <p>■鈴木 博太 委員（茅ヶ崎市相談支援事業所連絡会）</p> <p>□高田 麗 委員（茅ヶ崎市地域包括支援センター社会福祉士部会）</p> <p>■佐藤 尚美 委員（社会福祉法人碧 地域生活支援センター元町の家）</p> <p>■棚橋 利恵 委員（社会福祉事業団 相談支援センターつみき）</p> <p>■野口 新平 委員（特定非営利活動法人茅ヶ崎市障害者施設連絡会）</p> <p>■藤本 美佳 委員（神奈川県立茅ヶ崎支援学校）</p> <p>□吉岡 真紀 委員（茅ヶ崎市相談支援事業所連絡会）</p> <p>（オブザーバー）</p> <p>■大八木 元 氏（茅ヶ崎市障がい福祉課）</p> <p>■荒井 優広 氏（茅ヶ崎市障がい福祉課）</p> <p>■鈴木 敦之 氏（茅ヶ崎市障がい福祉課）</p> <p>（事務局）</p> <p>■瀬川 直人（ちがさき基幹相談支援センターナル）</p> <p>□鐘ヶ江 麻里子（ちがさき基幹相談支援センターナル）</p> <p style="text-align: right;">（■：出席、□：欠席）</p>
会 議 資 料	1. 令和６年度 茅ヶ崎市自立支援協議会 第４回 相談支援部会 次第
議 題	<p>1. 挨拶・本日の趣旨説明</p> <p>2. 来年度相談支援部会 具体的な取り組み内容・進め方について</p> <p>3. 来年度相談支援部会 委員変更について</p>
検 討 内 容	<p><u>1. 部会長挨拶・本日の趣旨説明</u></p> <p>委員の皆様それぞれの立場から、相談体制等に関する課題の抽出および共有にご協力いただいた。本日は、これまでに整理された課題をふまえ、来年度の具体的な取り組みに繋げていくための議論が主な内容となる。</p> <p><u>2. 来年度相談支援部会 具体的な取り組み内容・進め方について</u></p> <p>事務局より、「資料１」を参照しながら、来年度の具体的な取り組み内容（案）について説明が行われた。主な取り組み内容として、以下の３点が提案された。</p> <p>① 計画相談サポートブックの作成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・計画作成実務において標準マニュアル（茅ヶ崎版）を作成。</li> <li>・作成業務を明確にし、質の良い相談支援を提供することを目的とする。</li> </ul>

## 代表者会議【当日資料２－３】

	<p>② 相談事業の周知</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相談事業所の周知を勧め、相談支援の利用促進を図る。</li> </ul> <p>③ 相談支援体制の整備・強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・【誰もが身近な場所で相談したいときにできる相談支援体制】の構築を目指し、体制整備についての検討を行う。</li> </ul> <p>上記の提案をふまえ、意見交換が行われた。</p> <p>① 計画相談サポートブックの作成について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・計画作成にあたり些細な疑問が出てくる。サポートブックがあるとありがたい。</li> <li>・サポートブックを作成していく中でいろいろな意見交換ができること自体が良い事である。</li> <li>・相談支援専門員の資格を取ってから学ぶ場がない。わからないことを確認するだけでも時間を割いてしまう状況がある。</li> <li>・大切なのは「相談支援が大切」という理解。この意識付けを行うことが大切である。</li> <li>・相談の流れやサービス利用までの過程がわかるものだと、保護者の方々も理解しやすい。</li> <li>・きちんと業務を引き継いでいくためにも必要であると思う。</li> </ul> <p>② 相談事業の周知について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・周知の対象は当事者・ご家族もいれば関係機関などもある。どういった目的で行っていくかは検討が必要ではないか。</li> <li>・体制の仕組みの議論も並行していく必要があるのではないか。</li> <li>・教育機関にも（相談が）知れ渡ってないと感じている。</li> <li>・ご家族にも理解を深めるための周知をしていった方が良いのではないか。</li> <li>・相談機関を集め、お互いの役割を理解することで周知になるという方法もあるのではないか。</li> </ul> <p>③ 相談支援体制の整備・強化について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サービス利用する・しないに限らず、相談の意義とか目的を届けながらしっかり受け止められる体制を作っていくことが大切。</li> <li>・現状を共有することから始めることも大切ではないか。</li> </ul> <p>○上記のご意見を踏まえ、来年度の具体的な活動内容について、進め方も含めて検討を進め、課題の解決に取り組んでいくこととする。</p> <p><u>3. 来年度相談支援部会 委員変更について（報告）</u></p> <p>栢沼部会長に異動があり、今年度をもって部会長を退任される。栢沼部会長の所属からの新委員選出も行われる。合わせて新部会長の選出が必要となる。</p>
課 題 懸 案 事 項	<p>上記３つの取り組み内容(案)は本来一体的な課題である。「相談支援の目的」の共通認識及び当事者に届いていない現状は大きな課題である。サポートブック作成や体制作りが形作りだけのものにならないように意識した取り組みを行っていく必要がある。</p>